

小諸市自治基本条例に関するアンケートの結果について

1. 調査概要

1.1. 実施方法

- 調査対象：16歳から79歳までの小諸市民1,500人
- 抽出方法：令和7年9月30日現在の住民基本台帳から、性別及び年代別の構成比による無作為抽出
- 調査方法：郵送による調査票の発送、同封の返信用封筒での返信による回収、ながの電子申請による電子アンケートの実施
- 調査実施期間：令和7年11月4日（火）～12月7日（日）

1.2. 回収結果

- 調査票配布数：1,500部
- 調査票回収数：389部
- 調査票回収率：26%
- 回答者の属性

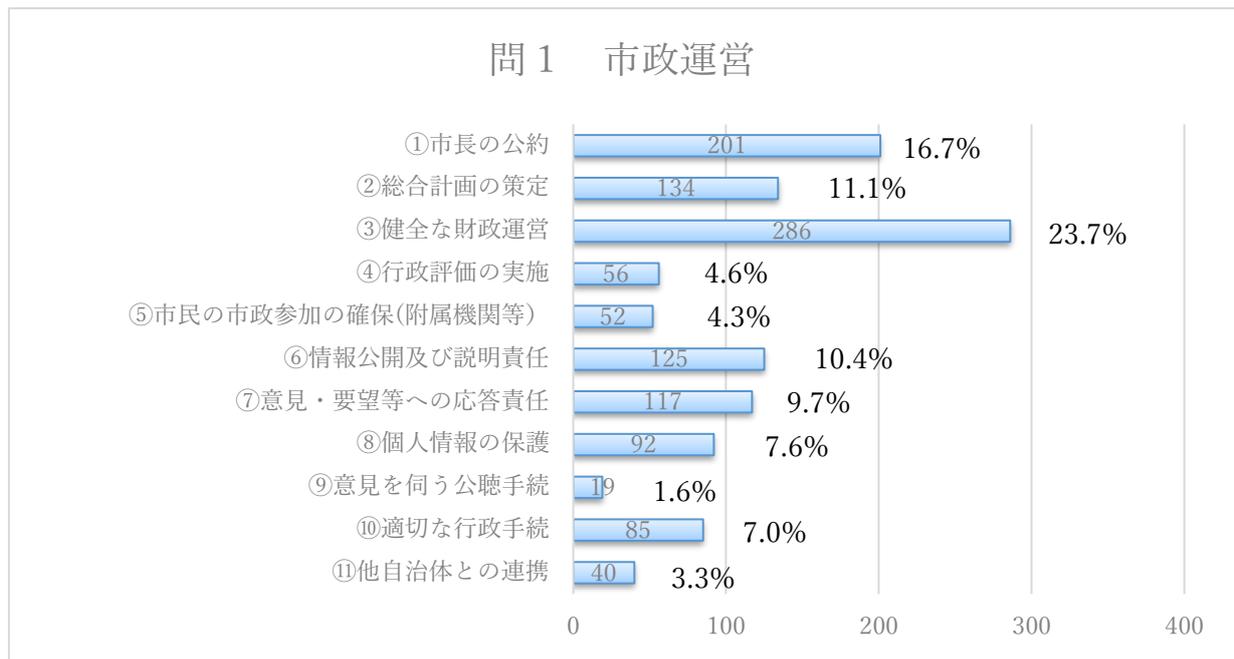
1.3. アンケートの内容

- 市民に小諸市自治基本条例が認知されその理念が浸透しているか、市民参加や協働によるまちづくりへの意識が根付いているのかを探る。

2. アンケートの質問項目と結果

問1 小諸市自治基本条例では市政運営のルールについて規定しています。
特に重要だと思うもの3つに○をつけてください。

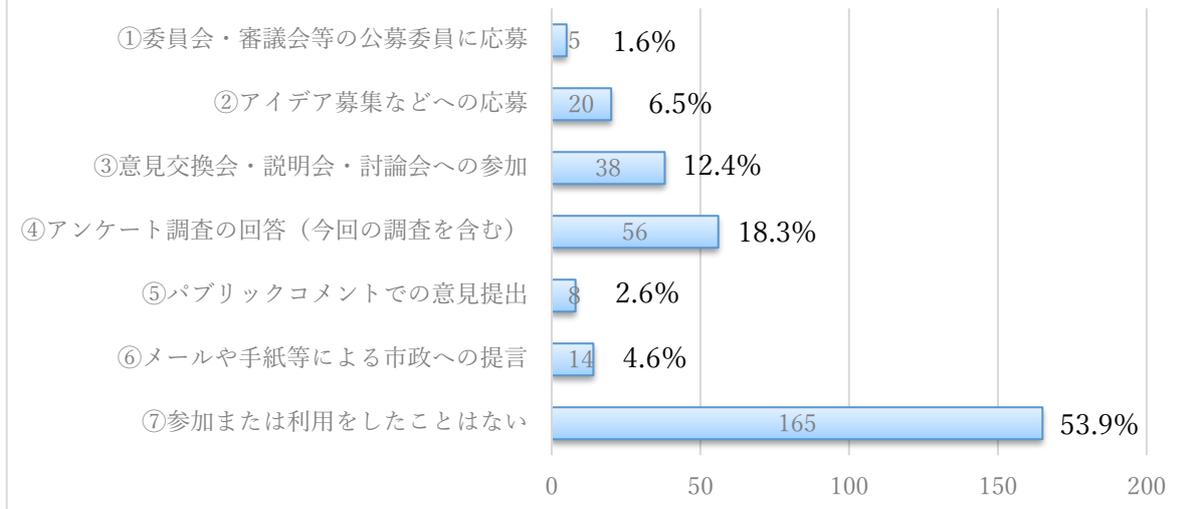
問1は市政を運営していくために掲げているルールについて何が重要かを問いました。上位3項目は「健全な財政運営」23.7%と最も多く、次いで「市長の公約」16.7%、「総合計画の策定」11.1%との回答から、市民が市の財政の安定や、市長が掲げた公約に対する期待を強く感じていることがうかがえました。税金の使い道や、将来にわたる負担の増加を避けることへの関心が反映されている可能性があります。



問2 小諸市自治基本条例では、市が行う施策に対して、より多くの市民の皆さんの意見を反映させるために、市政への市民参加について規定しています。あなたは、今までに、次の市民参加手続き等により市政への参加または手続きを利用したことはありますか。当てはまるもの全てに○をつけてください。

問2は市が行う施策について市民参加をしたことがあるかについて問いました。「参加または利用をしたことはない」が53.9%と約半数を占めました。「アンケート調査の回答(今回の調査を含む)」という選択肢があり、それを選ばずに「参加したことはない」と答えた人が多いことから、一部の市民はアンケートへの回答を「市民参加」として捉えてない可能性があります。アンケートは自分の意見を伝える手段として利用されますが、参加とは「市政に影響を与えるような実行的な行動」と考える人も多いかもしれません。アンケートを市民参加と捉えてもらうために、アンケート調査の目的やその結果が実際の市政にどう活かされるのかを明確に伝え、市民の意識を変える必要があります。

問2 市政への市民参加手続き等の利用状況

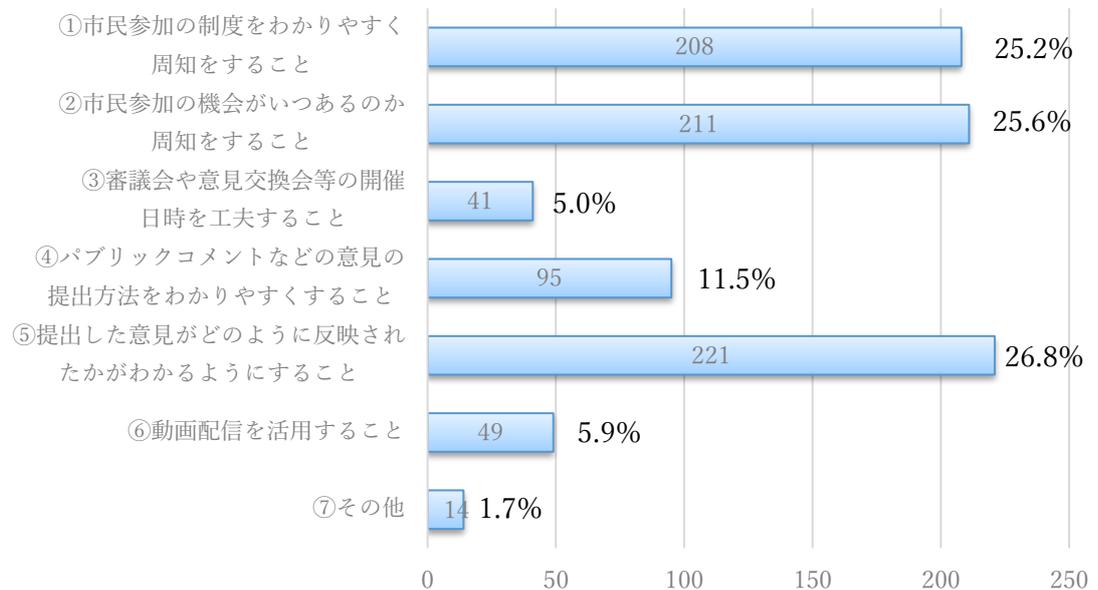


問3 市民の皆さんが、市民参加手続きをしやすくするために、市はどのような取組をする必要があると思いますか。当てはまるもの全てに○をつけてください。

問3は市として市民参加手続きの促進方法を捉えるために問いました。

市に対して、わかりやすい説明と周知、参加する意義を感じるために、意見がどのように活かされたかを確認できる仕組みを求めていることが分かります。また参加の機会がいつ、どこであるかが明確に伝えられていないと、関心が低くなったり、参加のハードルが高く感じられたりする可能性があることも分かります。

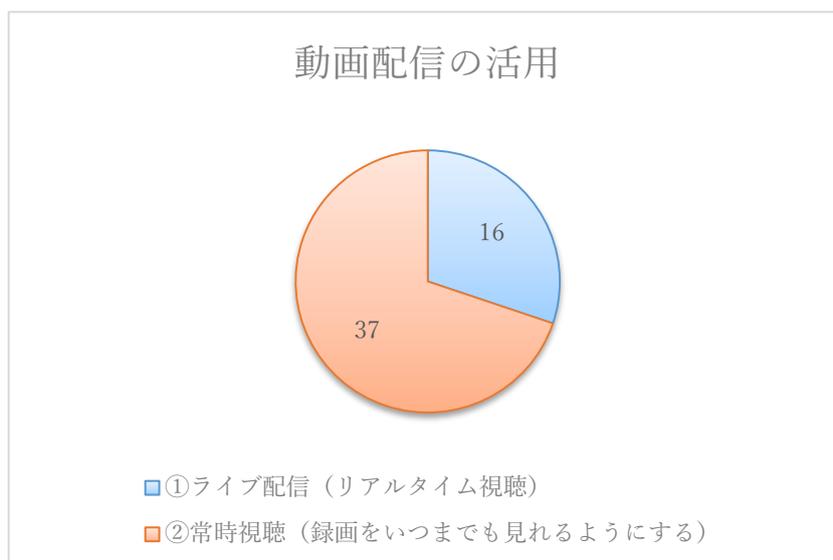
問3 市民参加手続等の促進方法



審議会や意見交換会の開催日時ですが、平日よりも休日の方が希望が多く、開催希望時間は19時頃が多い結果となりました。平日の仕事時間帯に参加が難しい市民が多いため、休日に開催して欲しいと考えている可能性があります。



また市民参加をしやすくするために、動画配信を希望している人もいました。動画配信を希望している年代は30代、70代が最も多く、またライブ配信より常時視聴の希望者が多い結果となりました。市民は、会議や意見交換会をリアルタイムで見ることにこだわりのではなく、自分の都合の良い時間に視聴できることを重視していることがうかがえます。特に、仕事や家庭の事情で決まった時間に参加できない市民にとって、録画視聴は非常に便利で、参加のハードルを下げると認識されていることが分かります。



◎その他意見

- ・高齢者や外国人の方でもわかるようなアピール。何でもウェブデジタルだと進みがちですが、全ての

人が対応できるわけではない。視覚障害、聴覚障害のある人も健常者と同等に情報を入手できますか？弱者を置き去りにしない工夫が必要です。

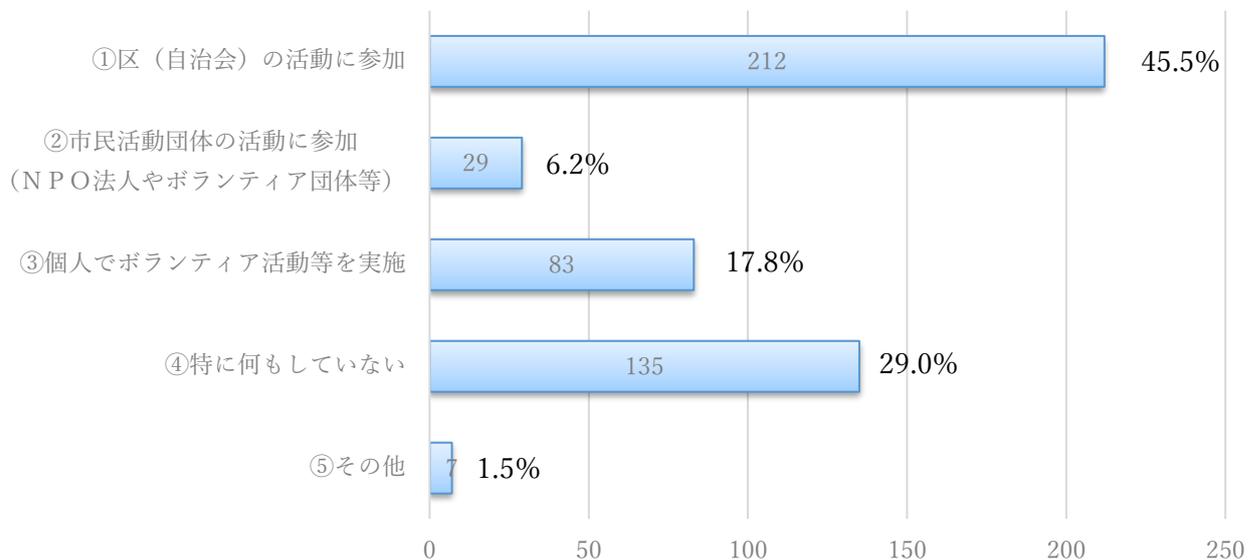
- ・私の所はテレビの電波が入りません。従って配信はスマホに成るか!!然し今の所インターネットには加入しておりませんので、市の広報での確認しかありません。
- ・平日は勤めがあり、休日はゆっくり休みたい。時間も労力も市民参加に使う必要性を感じていない。
- ・税金の使い方が知りたい
- ・審議会や意見交換会も Zoom 参加可能だと便利
- ・カタカナ用語が年配者には不自由
- ・市政への意見表明がいかに大切であるかを子供のうちから理解してもらう。
- ・地区単位で行う
- ・HP だけではなく SNS 活用による情報の発信
- ・アプリを立ち上げたなら上手く発信した方がいい。大規模な意見交換は通常は尻込みする。まずは年齢層や家族形態など小規模からはじめて最終的に行うべき。
- ・障害者その家族への理解。又、運転免許返納した人へのタクシー代の支給。
- ・アパートなので、広報が届かない。
- ・運営側が積極的に改善へと動くこと。守りな考えは伝統以外捨てること。面着ではなく、今回のようなインターネットによる選択式アンケート方式。
- ・言った者勝ちにならないように、地区代表者の意見を集約する仕組みを作る。
- ・できるだけかかわりたくない。
- ・そんな時間はありません。

問4 小諸市自治基本条例では、自治の基本理念の一つとして「協働のまちづくり」「市民協働」を掲げています。あなたは過去3年以内に市民協働に関する活動をしましたか。当てはまるもの全てに○をつけてください。

問4は過去3年間に公共の利益のために活動を行ったかについて問いました。「区（自治会）の活動に参加」45.5%と約半数を占め、「個人でボランティア活動等を実施」17.8%と「市民活動団体の活動に参加」6.2%が何らかの活動を行った結果になりました。一方で「特に何もしていない」が30%近くを占めました。区（自治会）の活動は、日常的に生活しているエリアで行われることが多いため、物理的にも時間的にも参加しやすいという利点があります。市民がわざわざ遠くの活動に参加するよりも、自分の住んでいる地域で行われる活動の方が参加しやすく、関心を持ちやすいという理由もあります。

一方で、区長や区の役員にやらされ感を感じている意見もあり、より多くの市民が自発的に参加できるような地域づくりを進めることが、課題となっていることが分かります。

問4 市民協働に関する活動状況



◎その他意見

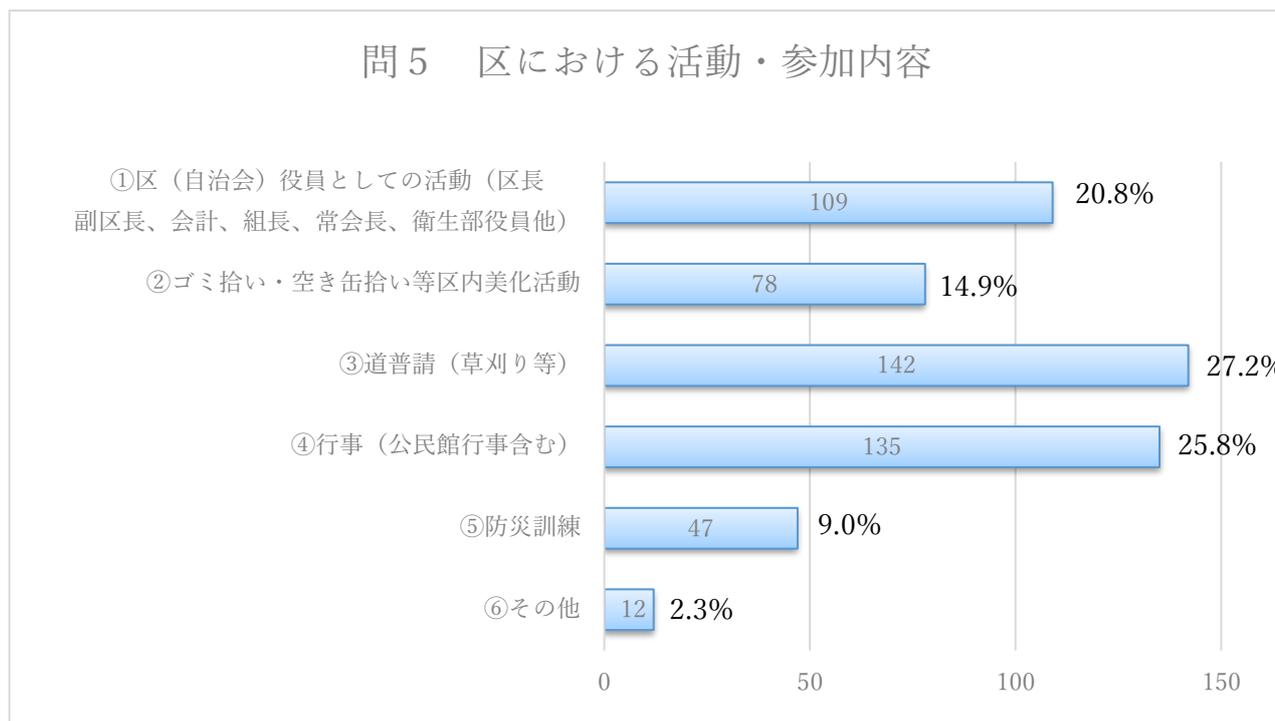
- ・ 自宅周辺の雪かきは行っています。地域のためというより自身のため。そのついでに歩道とか隣の空き家の前もとか余裕があればの話です。
- ・ 区のボランティア活動
- ・ 15年前からU字溝をなおさない
- ・ QとAが理解できない、マッチングという言葉も難しい。
- ・ 近隣のりんご農家の「花摘み」「葉摘み」など
- ・ 区の活動に家族が参加している
- ・ 通学路の草刈り
- ・ 学校PTA

問5 問4で①と回答した方におたずねします。あなたは区（自治会）でどのような活動をしていますか。又は参加していますか。当てはまるもの全てに○をつけてください。

問5は問4の「区の活動に参加」と回答した方へ区での具体的な活動内容について問いました。「区役員としての活動」20.8%と約2割の方が区の役員と回答されました。

またおよそ3割の方は、草刈りなどの道普請、公民館行事等を含む地域活動に参加していることが分かります。しかし自治会の活動が負担になっているという意見もあり、活動の分担の見直しや、活動の必要性の再評価、自治会への参加が「義務」ではなく「地域のための貢献」であることを実感できるような環境を作っていくことが大切と思われます。

問5 区における活動・参加内容



◎その他意見

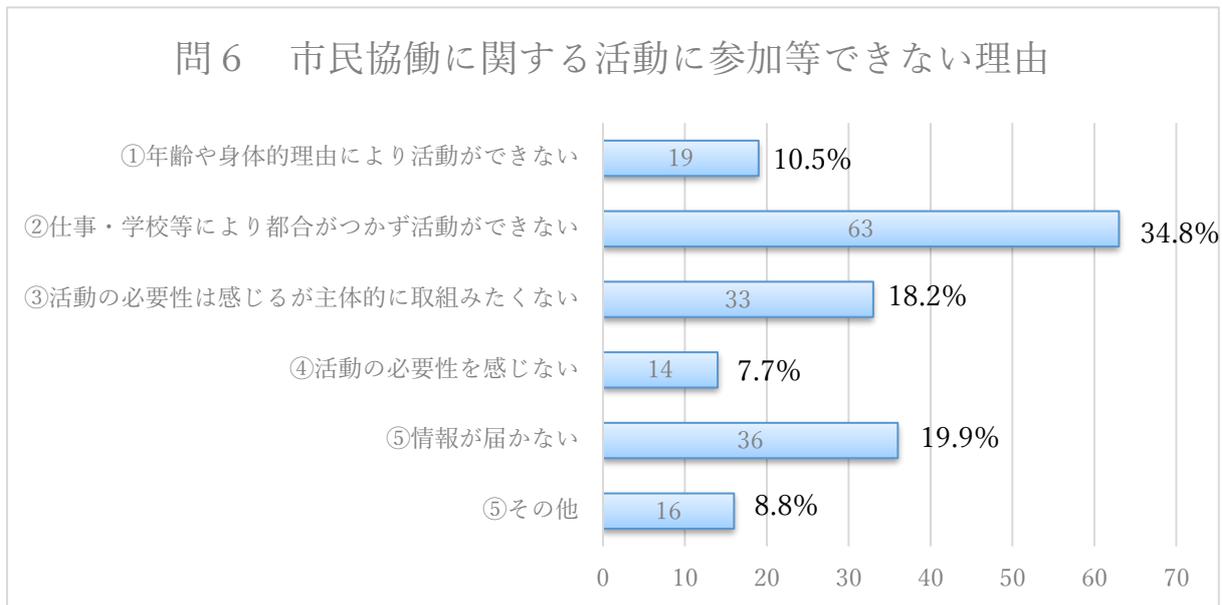
- ・子どもが小さいときには色々と参加しましたが、高齢者世代ばかりになるとあれやこれやと理由をつけて参加者が激減しています。かと言って働いている中年世代に参加を強制することもできない状況です。又子どもをもつ世帯の減少によりイベントも段々少なくなっています。自治会活動は大きな負担になっています。
- ・地域の歴史的遺産の保護・管理など
- ・老人会の中で副会長及びカラオケクラブ会長、その他福祉推進委員
- ・区の行事全てに参加
- ・ゴミ収集所の点検当番
- ・区に参加していない。区費は支払っている。
- ・自分は参加していないが、家族は参加
- ・小学生夏の集いの講師
- ・消防団
- ・班の軒数が少なく、高齢者が出れないため、役職が逃げるタイミングが無く、ぐるぐる回ってくる。
- ・資源回収 支部 PTA 活動

問6 問4で④と回答した方におたずねします。市民協働に関する活動について「特に何もしていない」理由は何ですか。当てはまるもの全てに○をつけてください。

問6は問4で「特に何もしていない」と回答した方へ、その理由について問いました。仕事や学校等の理由により活動ができないとの回答が34.8%と一番多い結果になりました。

次に19.9%の市民が「情報が届かない」と回答しており、市としてはHPやInstagram、LINE、広報誌等で情報発信をしているため情報の届け方や伝達手段にも課題がある可能性も考え対策をしていく必要

があります。また受け手側の「興味がない」や「必要性を感じていない」という問題も大きな要因のため、情報を受け取る側の関心や動機づけをどう高めるかが課題になります。

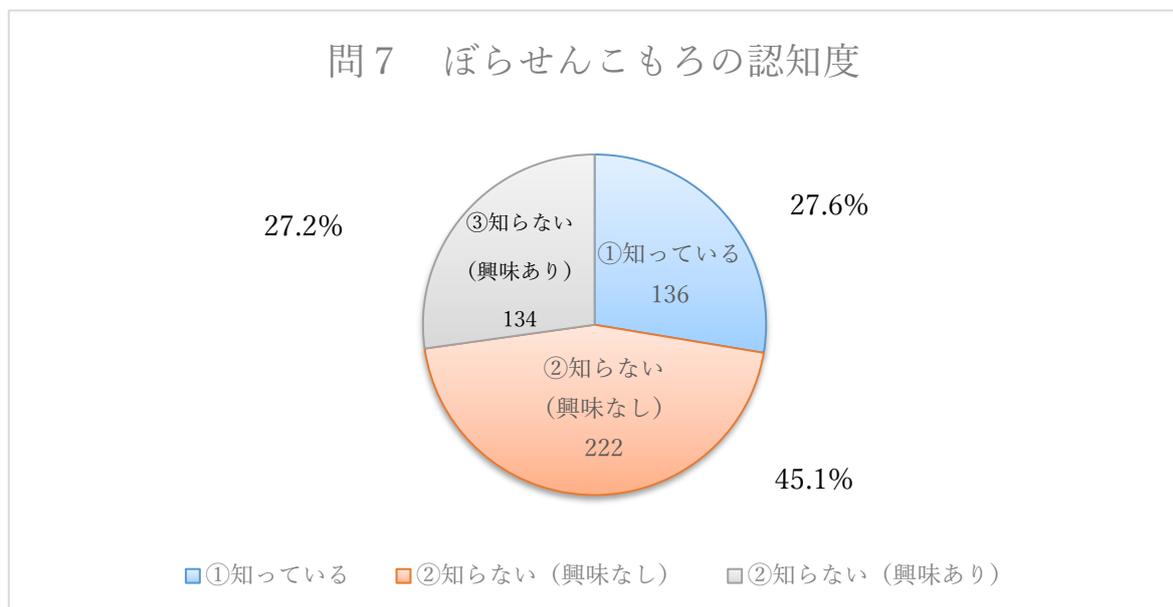


◎その他意見

- ・親（同居）が自治体の役員をやるので
- ・他の住居の道掃除、雪かき、ゴミ拾いを優先している。
- ・「協働」は義務ですか？自主的参加を原則とするなら「協働」したいと思わせるアピールが必要ではないでしょうか。どんなカテゴリーがあるのか、どんな技量を必要としているのか、どんな目的があるのか、どんなメリットがあるのか、具体的にわかりやすく見える化できていますか？小諸市は保守的で佐久市の真似ばかりしているように見えます。小諸市に本当に必要なもの、人の流れ等きちんとマーケティングしていますか？何でもやればよいものではありません。
- ・仕事で他の町に住んでいる
- ・小諸に住み始めて半年ほどのため
- ・現状以外に未だ出来ることはないかと考えた時、もし前に身に付けた技術を研ぐ必要が有る!!其れに加え、移動手段は愛のり君のみの為、この事が一番悩むところです
- ・市民協働に興味を持てない
- ・区の活動は父が参加しているため。
- ・個人としての動機がない。「公サービスを受ける立場である傍ら、市民は無償で働くいわれはない。」
- ・アパート住まいのため
- ・回覧板で、道路清掃等の連絡が来るが、私はクリスチャンであり、日曜日は教会に集っているので、参加することができない。
- ・アパートだからか、地区の情報も何も入ってこない
- ・転居してきたため
- ・両親が参加しているので自分が参加する必要はない。また何をやっているか知らない。
- ・進学し、拠点の小諸ではなくなったため。

問7 あなたは「ぼらせんこもろ」（小諸市市民活動・ボランティアサポートセンター）を知っていますか。

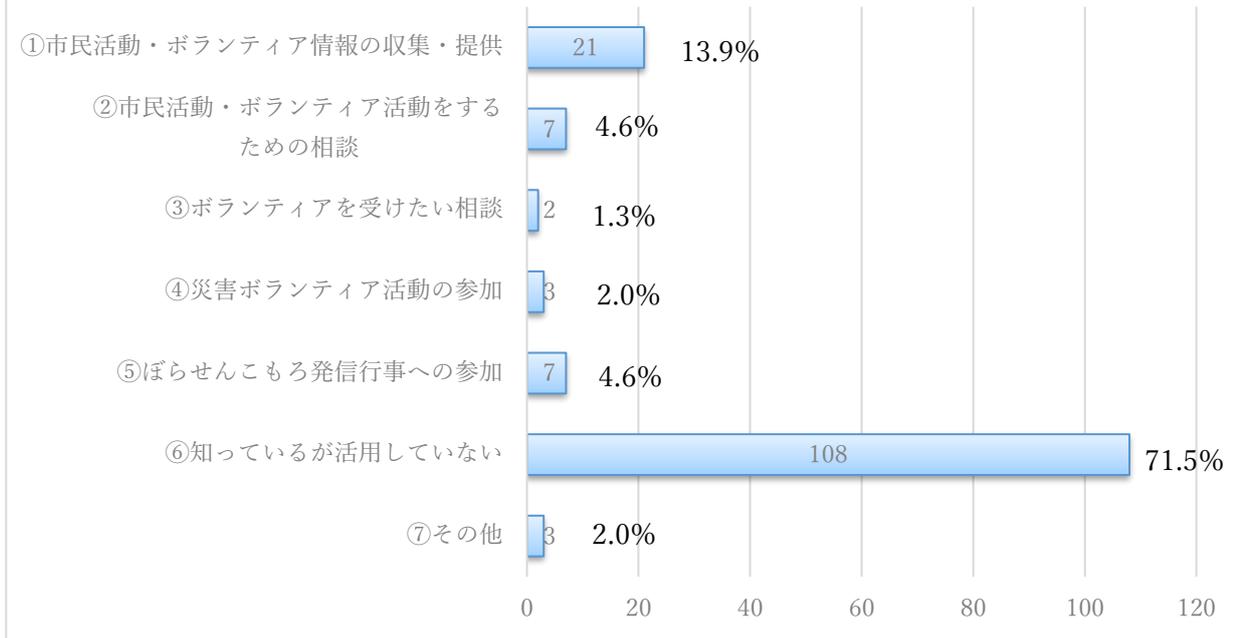
問7は「ぼらせんこもろ」の認知度について問いました。市民活動団体等の拠点として小諸市ボランティアセンターが平成15年6月に設置され、その後平成27年4月現在の名称に変更されました。愛称「ぼらせんこもろ」は市民公募により決定しています。当初の設置から22年目を迎えようとしています。約7割が「知らない」と回答しました。しかし「ぼらせんこもろ」の認知度が低い中でも、「知らないけど興味がある」と答えてくれる人が多いという点は、逆に言えば、潜在的な関心が高い人たちがいるということです。「知らないけど興味がある」という層に情報を届け、実際にボランティア活動に参加してもらうための周知方法を考えることが必要です。



問8 問7で①と回答した方におたずねします。「ぼらせんこもろ」をどのように活用していますか。当てはまるもの全てに○をつけてください。

問8は問7で「ぼらせんこもろ」を知っていると答えた方（27.6%）へ活用内容について問いました。「知っているが活用していない」が最も多く7割を占めました。「ぼらせんこもろ」自体には認知度があるものの、何らかの理由で活用されていないという状況です。この層をターゲットにして、実際に活動に参加してもらえるためのアプローチを考えることが重要です。

問8 ぼらせんこもろの活用状況



◎その他意見

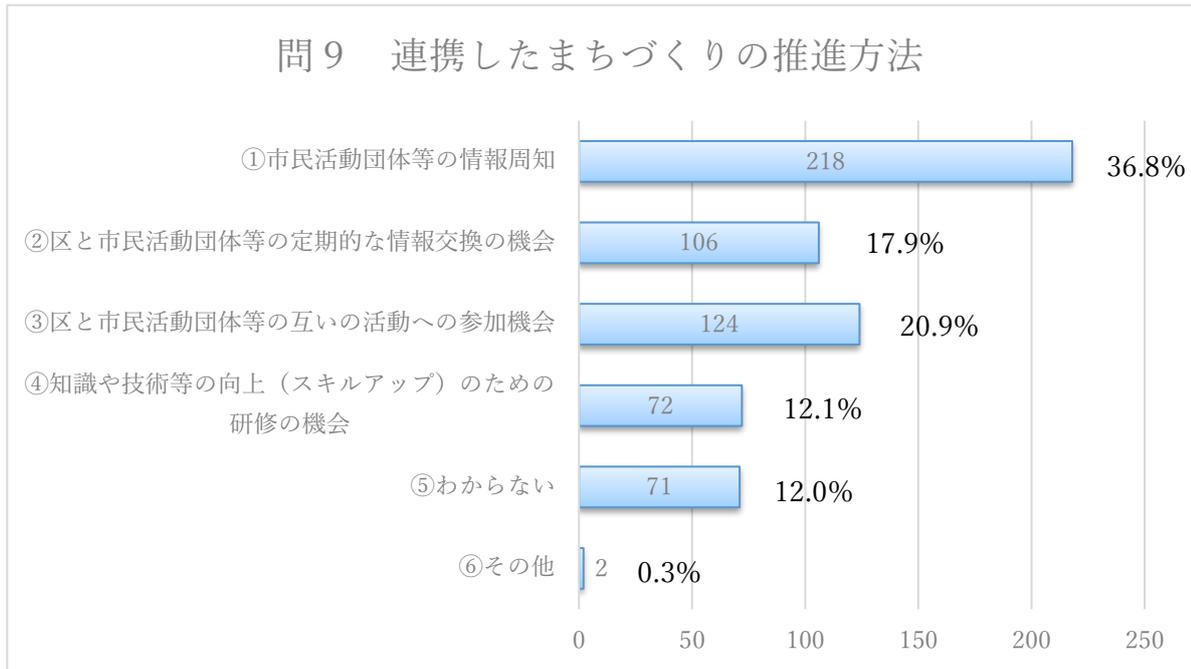
- ・上記で書きました様に何をするにも愛のり君の運行の時間内となります。これが一番のネックとなっています。
- ・ボラセンより依頼を受け活動している。
- ・コロナ前「ボラフェスタ」というイベントがあり、すごく楽しかった。また、やってほしいイベントです!! (フリマやおかしをもらえた!!)

問9 地域の課題解決に向け、「区」と「NPOやボランティア等の市民活動団体」との連携したまちづくりを推進するためには何が必要だと思いますか。当てはまるもの全てに○をつけてください。

問9は区と市民活動団体等が協力するために必要な方法について問いました。

市民活動団体等の情報周知(36.8%)、定期的な情報交換(17.9%)、互いの活動への参加の回答が20.9%との結果から市民活動団体を知る為の機会づくりが求められていることが伺えます。情報の発信方法やそのタイミング、内容に工夫を加えることが必要です。また市民の積極的な参加を促進するためには、まず「知る」ことが大前提で、その次に「参加しやすい場」の提供が大切と思われます。

問9 連携したまちづくりの推進方法

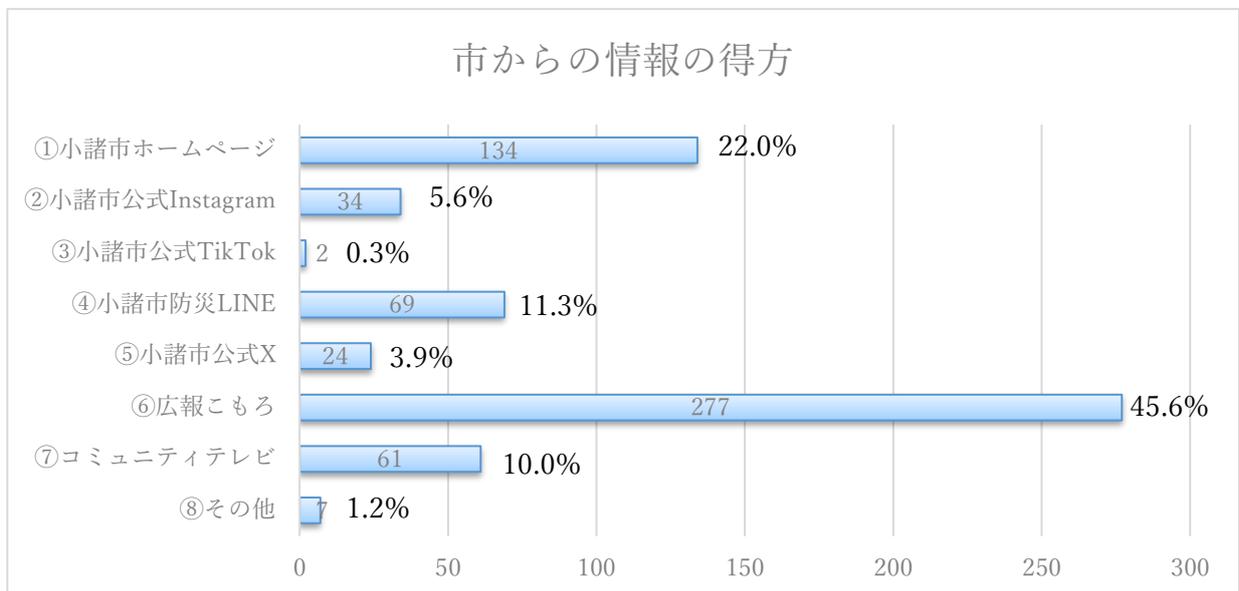


◎その他意見

- ・精神疾患が疑われる方は、医療とのつながり、精神科外来受診が必要。訪問看護がある。無資格のボランティアがやることではない。
- ・個人的な動機によるスキルアップを市の活動に繋げる取り組み
- ・市が区に負担をかけすぎているのではないか。

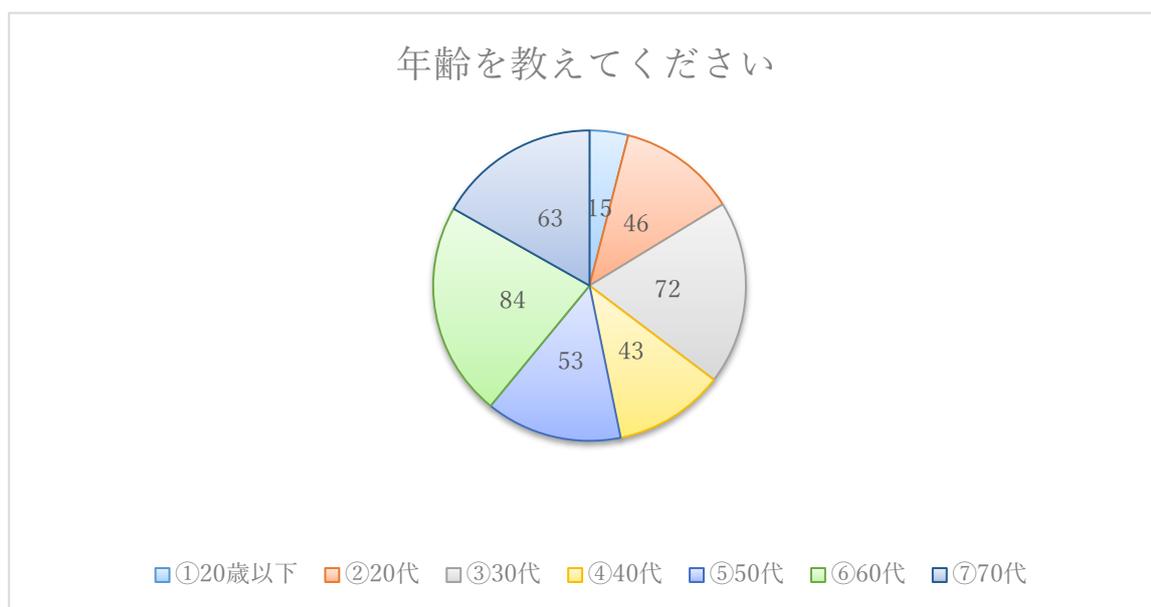
【市からの情報を主にどの媒体から得ていますか】

45.6%の人が、広報誌を選び、22%がホームページを選んだということから、広報誌が市民にとって最も利用されている情報源であり、広報誌の役割が非常に大きいことが分かります。市民に確実に情報を届ける手段として、広報誌は信頼されており、今後もこの媒体を活用した情報発信を強化することが求められます。広報誌が45.6%という結果は、依然として紙媒体が主流であることを示していますが、ホームページ（22%）やSNSなどのデジタル媒体が増えていることも確かです。情報提供の方法を多様化し、年齢やデジタルリテラシーに応じた最適な方法を選ぶことが大切と思われます。



【年齢を教えてください】

30代・60代の回答が多い結果となりました。それでも他の年齢層からもまんべんなく回収ができ（20歳以下を除く）、幅広い市民層からの意見が集まったということで、市民の多様なニーズや意見を反映させることができたという点では良い結果だと思われれます。全ての年代層からまんべんなく意見が集まっているので、全体的にバランスのとれた分析ができ、これにより市民全体の意見を反映した施策や対策を考えることができるので、より公平な政策提案が可能となります。



問 10 今後の小諸市における市民参加、小諸市自治基本条例の内容など、まちづくりを進めるうえで、ご意見があれば記入をお願いいたします。（自由意見）

●主な意見

【総務課】区に関すること

- ・区の年二回の草刈りを区ではなく、市が管理して行ってほしい。お年寄りが多く大変です。
- ・自治会の役員は持ち回りだが、なかなか大変な役だと思ふ。もう少し簡素化させれば良いと思ふ。
- ・回覧板制度なんかならないのか。班長によっては全然回さないし、エコではないし、お年寄りは大変だし、本当に大事なことをスマートに伝える方法を検討すべき。
- ・住民と区（自治会）のかかわりは重要であるが、区が過疎化、高齢化しており活動が大変になってきている。これ以上区の役割を増やすのではなく、区の役割を軽減する施策を考えてほしい。
- ・時代にあった運営をお願いします。余計なところは省く。区の仕事はお金を払ってでも委託したい。働く年代は共働きが多い、時間がない。余計な仕事をさせないで下さい。
- ・区の役員が、やらされ感を感じます。自らの意識を変えれば良いのかもしれないですけど。
- ・区で疑問に思う事などを気軽に聞ける場やツールがほしい。

【企画課】アンケート・市民参加手続きに関すること

- ・電子アンケートは手軽にできるのだが、高齢者には操作が難しく又正しい発信者なのか偽りの発信者なのか区別ができにくい。市役所に訪れる人に玄関先でアンケートを配ってもよいのでは？
- ・電子アンケートが答えやすい。
- ・このアンケートをして、どういう結果が得られたか、市からの情報提供がほしい。
- ・意見を言う機会があっても聴く耳を持っていなければ意味ない。
市民の声をきちんと聞いてほしい。アンケートも急に送られてきて迷惑。
- ・仕事をしていると、何かに参加したり、意見しに市役所に行くのは難しい。インターネットであれば夜でもできるので、参加しやすくなると思う。また、その周知はわかりやすく届きやすくした方が、普段市政や市役所に興味がない人にも優しいと思います。
- ・今回のアンケートで無作為抽出された対象者全員に粗品の一つ（図書カードやQUOカード etc）でもあれば嬉しい。
- ・封筒の表面。どこの課から来ているのか？内線は？
アンケートとは言え、発送先が記名されていないので、開封する際不信感があります。
- ・高齢者には厳しいと思うが、インターネットを利用した情報提供・アンケートを実施する。小諸市のHPの活用、会員登録の活用で、市内イベント情報や、特産品（桃・りんご等）の農協や直売所の連携による販売。また市内施設のお得情報（最近はやい等の自治体キャンペーン等もある。これらを提供し、HPの閲覧回数を増やすことで、市民参加につながる。これは全国へのアピールにもなると思う。
- ・防災ラジオは他市町村での取り組み・情報収集。年金生活者にも優しい情報の発信の方法を研究。
（カタカナ用語・略した表現方法等）市長と老人は同じレベルではない。
- ・市民参加する際の時間や日程の選択肢を増やしてほしい。
（さまざまな業種の人間が参加できることが望ましいと思うため。）
- ・委員会・審議会の参加を「ほったまわし」により実施。「地方自治をほんとに住民のものにすることが、民主主義と平和を守り、勝ち取るものになると思う。そのためには、自治体労働者と全ての住民とが、がっちり手を組んでこそ、それができると思う。地味な長い期間を必要とする仕事ではあるけれど、大切なことだと思う。はやる気持ちを抑えてガッチリ広めていきたい。そしてこの仕事は平和憲法改正の住民投票までには何としても間に合わせないといけないことだと思う。「第3回地方自治研究全国集会から自治体は住民の要求にどう応えているかー自治体行政の現状と問題点よりー」
- ・アンケートについて調査票記入の方が、じっくり読めるから回答しやすい。
- ・各自の意見がどのように反映されているかが、分かるようにしてほしい。
- ・普段なかなか紙に字を書かないので、紙のアンケートの方が楽しい。（簡単なのは電子だと思うが。）
- ・電子アンケートで気軽に意見を言えるようにしたら良いと思う。
- ・電子アンケートや情報もXの方が読みやすい・やりやすい
- ・アンケートについて今回のようなやり方（電子と紙）でやってほしい。
市民参加は全くできていないが、小諸は住みやすい、ありがたい。
- ・区をうまく使って取り組んだ方が、参加者等増えると思う。
- ・電子でのアンケートはやりやすい。
- ・このようなインターネットで答えられるアンケートはやりやすいです。

- ・電子アンケートが答えやすい。
- ・電子アンケートの方が時短につながり便利。
- ・障害者がいる関係で区から抜けました。その為、市の情報がほとんどありません。（回覧板がない）Youtube で発信するなど新たなプラットフォームで発信してもらいたい。外で定期的に放送する内容（警察署や広報小諸、熊などの出没情報）がモワモワとして聞き取りにくい。昔の有線放送などで各家庭設置する等市民全員が聞くことができる媒体を希望。
- ・電子アンケートの機会がたくさん欲しい。
- ・情報収集源は主にスマホです。今回のようにアンケートも web 回答できると参加しやすいです。
- ・今回のような電子アンケートが望ましい。直接意見を言うような人は、老害のような関わりたくない人が多いと感じるため、そのような人と会わない形式が良い。
- ・分かりやすい内容で聞いてほしい。
- ・インターネット回答だと便利で手間もあまりかからないから答えやすい。
- ・紙でのアンケートよりは電子の方が手短に終わるのでいいと思います。
- ・電子意見がいい。
- ・まずは、アンケートには答えやすい。
- ・郵送代や印刷代をかけてこのようなアンケートをしなくてもいいのでは？と思ったが、逆にメールや電話、LINE などで無理に来てでも無視しただろうと思うので、いい手段かなと。あと、「除雪を強化してほしい」と冬は常々思っていて過ごしていますが、こういう意見はどこに言ったらいいのかな？言っても何も変わらないのでは？と伝えたい思いよりも、あきらめの気持ちをもっています。
- ・市の情報等は「広報こもろ」とか「Facebook」で時々見ます。「LINE」で受け取る情報は緊急情報や公式情報等参考にしています。これからもネットを活用した情報発信に期待します。
- ・電子アンケートが答えやすいと思う。
- ・電子アンケートが答えやすい。
- ・市政に対して思うところはあるけれど、発信していない人が多いのではないかと思うので、些細な疑問や課題でも「どうして？」「こういうところが良くない」と年齢・職業問わず、気軽に声をあげ、反映される場があることが大切だと思った。
- ・（同じ人が提出するなどの課題はあるかもしれないが）市役所窓口や市主催のイベント・講演会時など行政と直接関わっている時・顔が分かるタイミングでアンケートを依頼した方が、アンケートを書きやすい・考える機会になるのではと思った。
- ・市民参加の必要性、重要性を伝えていくことで意見の増加につながるのではないかと。
- ・現在どのように総合計画や進捗状況を公開しているか把握できていないが、文字だけだと読む気が失せてしまう人も多いように感じるため、箇条書きやイラストなどを用いた簡易版もあると多くの人に伝わりやすいのではないかと思う。
- ・アンケートは年代別、例えば高齢者は紙ベース、若年層は電子アンケート等ターゲット別にした方が、回答しやすいと思う。
- ・多くの市民が休日の土・日のいずれかで、市主催の 100 円ランチイベントを開催し、100 円で食べられる代わりに、アンケートへの回答か市職員・市長との意見交換会を行うことで市民参加とアンケート回収を一度に実施。

- ・アンケートを通信機器で回答できるのがよい。
- ・市内に戻る機会が少ないため電子アンケートが答えやすい。
- ・仕事と子育て両親の介護など、自身のことで日々精一杯で正直小諸市のまちづくりのことあまり頭に無かったので、こういった市民に直接問うアンケートなどあると考えるきっかけになるので、良い取り組みだと感じた。
- ・意見を言う機会は欲しいけど、市の会議とかに参加するには敷居が高いし、子どもがいると難しい。子連れのイベントなど楽しめるイベントとかの中で強制アンケート取る（アンケート書くことで参加できるみたいな）とかだと市民の意見が得られると思う）
- ・もし可能なら、広報こもろを活用し小諸市のまちづくりについての意見募集や電子アンケート用 QR コードを掲載するなどすれば、より多くの意見を集められると思う。また自由意見となると、意見を考える事に戸惑い回答をしない市民も出てくる可能性があるため、ある程度議題設定を市で行うと良いと思う。
- ・小諸市は農業が盛んな地域でもあることから、今後産地維持を継続するためにも若い世代の意見を吸い上げる仕組みを構築していただきたい。
- ・仕事・子育てをしている人でも参加できるようなもの（PTA での活動の機会・学校行事に絡める等）があれば、限られた時間の中でも参加しやすいと思います。
- ・自分の例で書かせていただくと、芦原中地区で小学校統合の説明に参加したかったが小さい子がいる家庭が参加できる時間帯ではなかったので諦めた。意見はできなくても説明は聞きたかったので ズームなど リモートでも聞けるように手配して欲しかった。

【市民課】 ボランティア・ぼらせんこもろに関すること

- ・参加が義務と捉えられれば発展しない、「参加したい」と思ってもらえる工夫が必要。いい加減な会計にもかかわらず市職員となあなあ NPO 法人を知っているだけに、NPO 法人がいまいち信用できません。ボランティアは義務ではなく余裕がある人が行うものとの認識です。自治会活動もままならない地区でボランティアに参加しろというのは無理な話です。できる人ができる時にできることをする。その意識づけと、機会を与えることが必要だと思います。
- ・私が住んでいるのは農村地域のため、まだまだ他者を助けるというか周りに目を向ける気持ちが少ないです。日々の生活に追われボランティアには遠いです。かえて「ヒマな人」と言われます。
- ・20代で結婚して60代の今まで仕事仕事で六供区以外は全くわかりません。来年定年になるので、何かボランティアをしたいです。
- ・ボラセンこもろがあるということを今回のアンケートで初めて知った。佐久市では、佐久サポさんが学校まで足を運んで活動内容を教えてくださり、ボランティアに参加した。もう少しこの機関があることを発信していくべきだと思った。これからボラセンこもろを活用していきたい。
- ・高齢のためボランティア等に参加したいが、事実、若い方たちについていけないことがある。

【ゴミ問題に関すること】

- ・地域のゴミ集積所ですが、木製で鳥の出入りが可能なほど傷んでいる。谷地原区に対して、新設の要望を出したが、「あるだけいいと思え！」との返答だった。市役所に助けてほしい。区費の支払損な

気がする。谷地原区はグラウンドがすぐ近くにあるが、グラウンドに行かず家の周りでボール遊びが日常的で他の家にボールが入ってくるのが常態化している。車の往来もあるので、市役所から道路で遊ばないように、誘導してほしい。長野県は自殺・DV・不登校が多い。今後就職氷河期世代が高齢化していく。市政の難しいことには興味はない。コンパクトシティ化は良かった。

- ・自治会の活動に市が中心になって関わっていただきたい。（特にゴミ）ゴミ出しの方法が分かりにくい。生ごみ用の袋や紙紐等、ほかのところに比べて買い物が多い。
もう少し楽になれば、ゴミ出しの違反も減るのではないかと思われる。違反した人を探すために、関係のない人まで疑うなど犯人探しのようなことまでして目をひかせないといけない班長さん・ゴミ当番さんも負担が大きいのではないか。
- ・自治体含むゴミ収集場所問題。（場所増やすか、管理をどうするか、住民に納得させるにはどうしたら良いか）アパート住民に徹底させることは可能か？管理者（大家）問題とするか？

【景観・まちづくりに関すること】

- ・高齢者の多い小諸市です。また保守的な考えの多い小諸市です。移住者を増やしたい思いもわかります、でもどうでしょう。新しいお店が商店街に増えていますが、経営は成り立つ程の人の流れはあるのでしょうか。駐車場ガーデンの花壇をつぶしてキッチンカーをとという企画は誰が言い始めたのでしょうか。きちんと人の流れ、マーケティングを行えば無駄なことだとわかったのではありませんか？まちたね広場でのイベントの際に、イベント出店者がすぐ横の有料駐車場の中の石を外して停めるのでお客さんが「空」の表示で中に入るものの、当然駐車スペースがなく困って出ていくのを知っていますか？電源をトイレからとっているのを知っていますか？駐車場ガーデンの手入れが悪くなっているのを知っていますか？そういうところにボランティアをお願いできないのですか。適材適所。誰がどのような基準で振り分けるのですか。人の流れ・需要をきちんと把握するのは誰がやるのですか。ボランティアの教育はどうなっているのですか。ただ何かをやればいいのではありません。税金を投入して行う事業であるならきちんと調査し確認し報告してほしいです。普通の企業では当然行っていることです。
- ・町の景観が悪い。乾電池の回収方法が不明。場所などを適切に表示してほしい。
- ・小諸駅を中心としたイベント、企業の誘致など
- ・「マンガ」の様な意見を書きます。然し強く思っ居て遣ればできる！と確信します。私は「旧」別荘地の中に住みます。この中は管理会社が倒産したために今は道路は市道となり、其れに伴い持ち主の高齢化と相続の関係で、別荘は空き家が増え、市道になった道も雑草だらけと立ち枯れの木が目立ち、風・雨・雪で倒木になり停電も多くあります。この様な時は通電復旧の為中電関連の方が処理にあたります。この時点で中電の方に言った事があります、倒れる可能性の有る木は切れないかと、然しきっぱり「切れない」との事でした…持ち主の了承が必要とのことです。行政の方に申し上げます。此れに関してどれだけの支出をするの？それは何処が持つのか？その事を考えてみても倒木が予想される木を前もって処理する、もし林業を主とした学校があれば助成金を備え、技術を教え、第一に安全モットーで指導する。その後に出る木はチップや薪として商品にし、学校の収益にする!!など、遣り方はいくらでも考えられます!!
- ・市の中心部ばかりがまちづくりが進んでいる気がしています。郊外は何もかわっていない。

これから進むことを期待します。

- ・ソーラーパネル事業は市内でも少しずつ増えているかと思いますが、小諸市としての見解をお聞きしたいです。
- ・乙女湖公園・飯綱山公園などトイレ使用期間があつて不便を感じている。年間を通して開放を願う。
- ・少子化が進みこれからの日本が不安である。小諸市でも高齢化が進み空き家が多くなり、不安要素がたくさんあるが、今小諸市は頑張っている姿もたくさん感じる。
- ・他市町村と比較した場合、道路整備の遅れが目立つ。
- ・家には女の子の孫がおります。(中三) 3年間合唱部でこもろっこに参加させていただきました。コミュニティテレビで見せていただきました。まちづくりの一環だと思っています。明るい小諸市にするために自治体の皆様にお任せではなく健康の方は色々な所で活躍されたいと思っています。(大人も子どもも)
- ・広報の放送が全然聞こえない。市のようにラジオが必要。年齢を重ねたら、ゴミ収集場所まで行かれない。熊マップを見てもハッキリ分からない。
- ・まちなかマルシェなどに行ってみたいが、駐車場が分かりにくかったり、お祭りの時は歩く距離が長すぎたりと交通面で参加しにくい。あいのりくんをもっと使いやすいようにしてほしい。
- ・街中は整備されているが、それ以外の道路や街灯など整備が行き届いていない場所があると思う。
- ・小諸市を知ってもらおう。私は数年前に引っ越してきたが、当時よりはPRされていて、調べると情報は出ていると思う。(公民館の場所が分からないなど) 雑貨がすきなので、お店の写真や特徴をより多く載せていただきたい。ペットと一緒にいけるカフェや集いがあれば嬉しい。坂が多いので、お年寄りに優しい町であって欲しいと思う。終活にあたり、ゴミや不用品の処分を時々させていただいているが、すごくありがたい。(対応も処分のしやすさも)
- ・まち作りは地元民よりも、移住者に聞く方が小諸の良さを気づかせてもらえる。
- ・人口減少が進んでいるおり、今の政策だけでは人口は増えないと思う。そのため人口増加している他県(明石市など)を参考に制度をさらに充実させてほしい。
- ・通学路や交通の妨げになる近隣の雑草、生垣、木などに対する伐採や除草の対応を分かりやすく周知してほしい。個々の判断で放置する家庭もあるため高齢者にもわかりやすくイラストで示し、市の条例として記載してほしい。また、相談フォームなどもあればありがたい。
- ・少子高齢化社会が進む事から、更なる市民税減収が予想されます。今後人口を増やす為にも、企業誘致が絶対条件だと感じています。小諸市は交通の便が良いこと、自然が豊富で有ること、絶景で広大な敷地の御牧ヶ原をレジャー施設等で利用してみるのはいかがでしょうか！！
- ・相生町に新しい飲食店も増え、イベントの開催などががんばっていると思います。
- ・社会福祉の充実、空き家対策、商店の誘致、若者の暮らしやすい町、行政の透明化、医療の充実
- ・通学路の歩道整備をしてほしい

【意見提出・情報提供に関すること】

- ・投書箱を市役所だけでなく、人が多く利用する場所に設置する。またその場所を周知させる。
- ・高齢者は「広報こもろ」等の紙媒体をよく読んでいるようです。SNS等の充実はもちろん「広報こもろ」等から情報を得て参加できるようなくみの充実を望みます

- ・広報こもろなどに意見を書ける便箋のようなものを加えて、切り取って市役所に専用のポストをおいで入れてもらう
- ・直接意見を言うことができる仕組みを作してほしい。（まずは区長へ意見を言い行政に意見を言うというような事は、問題解決に遅延が生じる）例として道路の穴等の修繕について、まずは自治会を通して意見を言う等の流れをやめて、市民から直接意見を収集できるような仕組みづくりをしてほしい。区の行政や行政職員の調査作業等の軽減にも繋がる可能性がある。これからは道路管理による自動車事故等の軽減が重要に感じます。
- ・子育てをしている人たちの意見が届くといいなと思います。
- ・広報こもろ見ていて、いつも面白い。
- ・地域の困りごとや相談等スマホから気軽にできたらありがたい。
- ・広報こもろで良い
- ・数ヶ月前に小諸市の飲食店、スーパー等で利用できる 5 千円チケットがあると同僚から聞きました。その方は佐久市在住でした。小諸市在住以外の方も使えるチケットのようで、すでに期限は切れています。そのようなチケットがある情報はどちらで掲示されたのか知りませんでした。このような知る人は得を知らぬ人は損をするような事がない情報提供をお願いしたいなと思います。
- ・せっかく市の LINE アカウントがあるので、イベント情報を発信してくれるのはありがたいのですが、それ以外の情報も発信またはメニューから色々情報が見られる様になるといいと思います。

【出産・子育てに関すること】

- ・保育園等に関する状況が近隣の市町村と比べて良くないと思う。生活が大変な高齢者の方々の補助と同じくらい、これから子供を育てていく世代も大事。保育園に入れずに、小諸市に住むのをやめた人もいますが、もう少し改善してほしい。私の周りの新婚の先輩も私も保育園に入れなかったと伝えたら、新居を小諸以外にした人がいた。
- ・産前産後ケアをもっと手厚く。新しい子供の誕生をもっと手当てというかたちでお祝いしてほしい。
- ・子育てをしている人たちの意見が届くといいなと思います。

【その他】

- ・内輪感があって、未経験者は活動に入りづらい。
- ・家の前の市道の舗装がボロボロになっているので、なおしてほしいです。
- ・現在 79 歳ですが、16 年前ガンを経験以来生活習慣を 180 度変えてみました。その成果が役に立ったのでしょうか？現在は特に医療でお世話になることなくおります。

昨年、恩返しが出来ることがあればとボランティアの集会に出席してもらいましたが、自分が手伝える様な発展には至りませんでした。地区でできることも思いましたが、未知の世界で回覧板で知るのみです。昨年から区のことが見たいので敬老会の招待に出席してみました。我が地区は会計報告も回りませんので、住んでいても未知の世界です。なのでどうお手伝いの先駆けを作れば良いのかもわかりません。市とか区でもそんな窓口があれば、お手伝いしてみようと思っている私です。私は車が好きなため、長野県内や近県をドライブして、また行きたくなるような街づくりがされていると何度も行ってしまいます。小諸はどうしちゃったんだろう？メインストリートに人がいない。市の情

報も私にはいつもよく解らない。いつ、どこで、何があるのか？行事のある時に市の放送では伝えることは出来ないのでしょうか？なので正直小諸に住んでいても街中へ行ってみようという気には全くなりません。小布施を通ると、今でも常に観光客が街を歩いています。市長さんが変わっても同じ課題を引き継いで現在まで育ててきた街づくりと知りました。町民も自分の庭を解放する寛大な心に当時本当に驚きました。体力も余っているので、自宅の庭でプランターを利用して春から秋まで10種類位の野菜を育て自給しています。40年位前に1本の棒状の柿の苗を2本買い、庭に植えました。将来車の屋根代わりともう1本は居間の前の日傘になればと剪定し続け理想の木になりました。先を見据えてやったことが実を結ぶと本当にうれしいものです。活気ある小諸市になることを期待し祈っております。

- ・色々な考えがあるので、固定観念にとらわれず、市民の意見の実現に尽力してほしい。
- ・市民の中にはその道の専門家が多くいるのでクレームとしてではなく、その方の意見を冷静に聞くことが必要だと思います。
- ・同じ地区の皆さんとは定期的な活動を共にして知っているがアパートの方々とは顔も知らないし会話もしたことがない。道ですれ違ってもあいさつもしない。近所にそういう人々が複数住んでいることに不安を感じている。
- ・市役所の窓口が冷たい。要望等言っても、「区長に言え！区長の意見をつけて区長からでないを受け付けない。職員数も少なく対応する人がいない。基本条例だ。」と取り合ってくれない。窓口へ行った時には対応してほしい。
- ・飲食を伴う活動になると女性の仕事が増える。（用意から片付けまで）男性はいつまでも飲んで片づけられないし、本当に嫌になる。衛生状態もよくない。男性優位と年上の言う事が絶対という感じもずっと続いている気がする。こういう所の改善から始めてほしい。
- ・物価が高くなっているの、市としての物価高対策もお願いしたいです。
- ・各種資格取得、講習等は主に長野市、松本市が主流となっていて不便。佐久市でさえなく小諸市の役場等ほか、大きな会場あれば小諸市で行って欲しい！とにかく北佐久地域に資格取れる会場など希望
- ・小学校のバスや、児童館、芦原新校、について署名したりしましたが、色々な理由で良い返事が返ってきたことがありました。もう少し、地域関係なく平等にして欲しいと思います。
- ・なんでも電子化されると、年を重ねるごとに参加しにくくなる。便利だが、苦手な人も多々いる。
- ・いち市民としての実感を職員の業務判断に活かす姿勢がまちづくりの要だと感じます。ボランティア頼みの行政運営には違和感があり、行政の責任と体制を整えたいうえで、市民と一緒に考え形にしていく関係が望まれます。
- ・移住された方々がアイデアや新しい店舗や企画を出してくださっています。それを応援したり、共に活動できる機会を市でも作って欲しい
- ・若い世代が強制的にでも知れるようなことをする。アンケート等で知らせる
- ・空き家を駐車場として貸してほしい
- ・生い先短い年金生活者の生活も夢と希望が持てる骨子を盛り込んでほしい。
- ・具体的には思いつかないが、市民一人ひとりが自分のまちをどう良くするか考えて参加しなければと思わせる何かが必要。